

個性を生かす総合学習の展開  
— 「けん玉」を取り入れた授業を通して—

慶應義塾幼稚舎 千葉 雄司  
常磐大学人間科学部 森山 賢一

1. はじめに

今日の学校教育においては、「基調の転換」をはかることが力説され、「自ら学び、自ら考える教育への転換を図り、子どもたちに生きる力を育てること」<sup>1)</sup>が基本方向として掲げられている。

今次の教育課程改訂においての最大の目玉は、「総合的な学習の時間」に置かれているといてもよい。このことを教育課程審議会答申では、「自ら課題を見つけ、よりよく課題を解決する資質や能力の育成を重視し、自らの興味・関心に基づき、ゆとりをもって課題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度の育成を図ることとする。」<sup>2)</sup>と明示しており、まさに、これからの学校教育において「基調の転換」に直接的な関わりのある課題であり、大きな期待を担っているものである。

しかし、その反面、これまでの教科学中心の学習活動を行っていた学校現場にとっては、心配や不安も大きい。

特に、「総合的な学習の時間」は、子どもの興味・関心を最大限に尊重した教育活動の展開が望まれるのであり、「地域や学校の実態に応じ、各学校が創意工夫を十分に発揮して学習活動を展開するものとする。」<sup>3)</sup>ことが、必要不可欠である。教育課程審議会答申では、具体的な学習活動として、「国際理解・外国語会話、情報、環境、福祉・健康」<sup>4)</sup>を例示しているのであるが、あくまでもこれらの課題は「例えば」であり、具体的には教師が子どもの実態を踏まえ、学習活動での構想をねり、「総合的な学習の時間」を子どもと共に展開する力量が求められてくるのである。

本研究は、慶應義塾幼稚舎での単元づくり、教科づくりの視点を中心に「総合的な学習の時間」について、けん玉を教材とした実際の学習活動について実践的考察を行ったものである。

2. 教育活動の実際

単元名 けん玉にチャレンジしよう!

(1) 単元の構想

- ・けん玉を通して、子ども自身の体全体で学ぶ単元である。遊びを通して友達とのかかわりを深め自分の力に挑戦し、一つのものを作りとげることを体験する。
- ・けん玉を通して、子ども・家庭(親)・教師の共通の話題をつくり、子どもたちに豊かな人間性をはぐくむように指導する。

- (2) 対象 2年E組 児童40名 (うち男子 29名 女子 11名)  
6年O組 希望者11名 (一回のみの参加者も含む)

千葉・森山：個性を生かす総合学習の展開

- (3) 実施期間 平成10年10月2日(金)～平成11年3月5日(金)  
活動場所 ・2年E組教室 ・体育館

(4) 学習活動計画

活動ステップ	期 間 日	主たる学習内容	時数
(I)	H10. 10. 2	① けん玉とは?      ② 手乗せゲーム	1'
(II)	H10. 10. 16	① 前回の復習      ② けん玉の歴史	1'
(III)	H10. 10. 31	① 保護者会参観日      ② 認定会	1'
(IV)	H10. 11. 20	① 基本技の練習      ② 重さ, 長さくらべ	2'
(V)	H10. 12. 11	① 新しい技に挑戦1      ② 認定会	2'
(VI)	H11. 1. 22	① 新しい技に挑戦2      ② 認定会	2'
(VII)	H11. 3. 5	① おさらい      ② 発表会	2'

(5) 総合学習としてのねらい

- ①けん玉を通して技を習得する。
- ②けん玉を通して友達とのかかわりの輪を広げる。
- ③けん玉を通して達成感・成就感を味わう。
- ④家庭(親)・子ども・教師のコミュニケーションを広げる。
- ⑤けん玉を通じた国際文化交流
- ⑥教科, 領域学習への発展

(6) 教科・領域学習としてのねらい

国語科

- ・けん玉の技を習得するために自分から進んで家の人に聞こうとする。
- ・経験したこと, 感じたこと, 考えたことなどを文章にする。

算数科

- ・けん玉を通して, 重さの概念について考え, それらが測定できることを知る。
- ・けん玉を通して, 長さの概念について考え, それらが測定できることを知る。
- ・ものの形について, けん玉を通して考え, 基本的な図形の概念を知る。

社会科

- ・けん玉の歴史を調べることによって, ヨーロッパ, 特にフランスの当時の生活習慣や歴史的背景を学ぶ。
- ・世界のけん玉を手にするによって, その国々の生活習慣や風土を知る。

理科

- ・けん玉を通して, 運動と速さについて考えてみる。
- ・落ちてくるものを受け取る力やものを引き上げる力についての概念を養うことができる。

体育科

・1スポーツとして体力，持久力，集中力，動体視力，平行機能などを養う。

学活

・子ども同志が協力し合いながら，グループ活動をする。

などが挙げられる。<sup>5)</sup>

3. 学習活動と子どもの変容

学習活動と子どもたちの姿	教師の支援
<p><u>活動ステップI</u></p> <p>○けん玉とは？ けん玉のかたちを知る。 各自1本ずつ持っているのだから，触りながら実際のもの確かめる。</p> <p>○けん玉にけん玉と玉を乗せてみる。 手乗せゲームをしながら，けん玉には無数の技が存在することを想像させる。</p> <p>○技を見る。</p> <p>○実際に挑戦する。 a. 持ち方を覚える。</p> <p>b. お皿乗せの挑戦する。 ・落とし玉 ・大皿ジャンプ ・キャッチボール</p> <p>○認定会 全員で10級の検定を行う。</p>	<p>○けん玉には，3つのお皿（大皿，小皿，中皿）と1つのけん先がある。これらに乗せたり入れたりして行うので，各部分の大きさが何cmぐらいあるかなと問い掛け，確かめる。</p> <p>○お皿とけん先，その周辺の部分にも玉やけんが乗るので手を使って実際に乗せて見せる。玉には9か所，けんには14か所乗せられるところがある。</p> <p>○実際に手で乗せることができることを理解させた後，実技を見せる。始めはお皿に乗せる技から連続技までバリエーションにとんだ組み立てを心掛ける。（興味・関心をもたせる）</p> <p>○けん玉には技によって持ち方がある。それぞれ自由なやり方で持っても成功することもあるが，基本が大事であるということを教える。</p> <p>○始めは玉を手で落としてお皿でキャッチする「落とし玉」を練習する。また，ひざをクッションにして玉を乗せられるように練習する。なかなかうまくひざを使える子どもは少ないので，個人的に持ち方，乗せ方の指導をする。</p>

10回挑戦して1回、大皿に乗せられれば合格する。

検定結果 40人中32名が合格する。

○まとめ

もう一度、見たい技や挑戦したい技を発表する。

活動ステップⅡ

○前回の復習をする。

どうやってうまく乗せられるようになるのか考え、練習の成果を発表する。

けん玉の歴史

○けん玉のルーツを考えてみる。

「けん玉ができた国はどこだと思う？」

「アメリカ!」「中国!」「日本!」  
様々な国の名前が挙がる。

○実際にさわって体験する。

「カップアンドボール」

- ・フランスのけん玉
- ・アメリカのけん玉
- ・メキシコのけん玉
- ・パラグアイのけん玉

「玉が大きい!」「きれいな色してる!」  
「大皿、小皿がない」など独特のかたちに  
歓声があがる。

○体験した後、みんなが使っている日本のけん玉との違いを考えながら、自由に感想を発表し合う。

○日本けん玉協会公認級位検定に基づいて、全員で行う。

○次回までに少しずつ個人練習をしておくことを伝える。ひざをクッションに使うことを再度説明。もう一度子どもたちの見たい技を見せる。

○「練習していましたか」と問い掛ける。それぞれに返ってきた質問に答える。

○前回行った技の復習とひざの使い方を説明けん玉をしながら実際にコツを教える。

○世界（フランス・アメリカ・メキシコ・パラグアイ）のけん玉を用意し、けん玉の歴史について教える。

○様々な国の名前を挙げさせる。その後、  
「フランスという国なんだよ」

○事前にシャンパングラスに毛糸玉をつけた「カップアンドボール」を復元しておき、実際に体験させる。その後、フランス製のけん玉（ビルボッケ）なども体験させる。竹でできたけん玉も紹介する。入ると音がいい。

○世界各国のけん玉には大皿と小皿の部分が存在しないことを理解させ、みんなで挑戦しているけん玉は日本のオリジナルの形であることが分かるように、感想に答えながら伝える。

○どのようにして日本に伝わって来たのか問答する。

船で? どの国から? 日本のどこに?  
様々な国の名前や日本の町があがり、黒板に記していく。

○技を練習する。

前回に続き、お皿乗せに挑戦する。  
・小皿 ・中皿 ・ろうそく

○認定会

今回は7, 8, 9級合格を目指し挑戦する。

結果は7級に23名, 8級に10名, 9級に5名, 10級に2名合格。

※けん玉を始めて2週間で全員が検定(10級)に合格する。

○まとめ

今日のおさらいをする。

### 活動ステップⅢ

○復習をする。

今回は復習で大皿から技を見る。  
新しい技を知る。

「テレビ見たよ」「おもしろい」  
真剣に見ている姿が伝わってくる。

○練習する。

ろうそく, とめけん, 飛行機という技の練習をする。  
父母も参加してみんなで挑戦する。

「こうやってやるんだよ」

○答えやすいように自由に発言させる。

○技のレベルを少し上げて挑戦させる。  
向上心を高める。

○1つの技を10回挑戦して規定回数乗せられれば合格となる。7級はろうそく, 8級は中皿, 9級は小皿に乗せる。(日本けん玉協会認定による)

○次回に挑戦する「とめけん」(玉をけん先に入れる)のやり方を説明する。

○今日は保護者会参観日。大勢のギャラリーの中に出迎えられるスタート。導入で「キッズ天国」(テレビ東京)のVTRを流し, そのVTRにあわせて技を解説, 披露していくようにする。

○保護者の方にも参加するようにはたらきかける。  
昔懐かしそうに楽しんでいるのが印象的であった。教室で子どもたちが親に「こうやってやるんだよ」と教えあっている姿がとても良い。完全に子どもたちにけん玉が浸していることを実感する。

子どもたちがけん玉を手を持ち、父母に教える。

#### ○認定会

今回は希望者が集まってそれぞれの級を検定する。

6級に3名、7級4名、8級1名が合格。

保護者の方も検定を受け、3名のお父さんが5級（飛行機）を合格する。

6年生も挑戦。

1級に1名、3級に1名、6級に4名合格。

#### 活動ステップIV

#### ○基本技の練習

今回はお皿乗せ、基本技を各自で練習する。

#### ○「もしかめ」を挑戦する。

はじめは1～3回がやっと乗せられるという子どもたちが多く、長くは続かない。

ひざを屈伸してやるようになると連続して乗せることができるようになる。

#### ○重さくらべ

となりのお友だちのけん玉を借りてさわり、玉やけん玉の重さを手で確かめる。

「〇〇くんのけん玉は重い！」

「△△さんのはすごく軽いよ！」

○みんなで挑戦する場にするために時間を多めに設け、親子で練習できるように心掛けた。

○保護者の方にも検定を受けてもらい、授業内で子どもたちが取り組んでいるけん玉について、共通の体験を通して理解してもらえるようにはたらきかける。

○けん玉を始めてから1か月半が経ち、子どもたちの中にも着々と浸透していることを感じる。それは、私が教室に入ると拍手で出迎えられたからである。すでに話を聴く態勢ができていた。

○前回までは全体で行ってきたが、今回は各自で練習する時間を設けて思い思いに練習させるようにした。

○お皿に乗せられるようになると今度は次の技への向上意欲をかき立てるため、「もしかめ」（大皿と中皿を交互に連続して乗せる技）を挑戦させる。

○1回1回、ひざを屈伸して乗せるように指導する。

○クラスの子どもたちを席に座らせてからはじめる。

けん玉の材質は「木」で、日本けん玉協会公認のけん玉はブナ材を使用している。よって自然の恵みを受けていることを知らせる。

○けん玉の大きさは、均一化されているが、

子ども同志で会話（感想）がではじめる。  
けん玉の重さに興味・関心を持ち、自分のけん玉は重いのか、または軽いのだろうかというように考えるようになる。

○様々な重さの異なるけん玉を手にするこ  
によって、重さの概念を養うことができる。

○長さくらべ  
けん玉は玉とけんが糸で結ばれている。この糸を使って長さくらべをする。

○長さの異なるけん玉の糸をくらべること  
によって、長さの概念を養うことができる。

○認定会  
今回も一人1回ずつ認定を受ける。  
技の異なる各級ごとにグループをつくり、その中で検定をする。

結果は6級に12名、7級に10名、8級に2名が合格する。  
6年生も1名が準初段を合格する。

#### 活動レベルV

○新しい技に挑戦1  
基本技（お皿乗せ）を発展させるために新しい技に挑戦する。

その重さは、使用した部分によって違いが生じる。この利点を生かし、重さくらべをする。

○今までの学習では各自で持っているけん玉を使用していたが、他の人のけん玉を交換させて触るように指示する。  
キズが付くなどの理由でけん玉を使ってもらいたくないという子のいるので、手で触って重さを確かめるくらいが良い。

○これは、プラスチック製のものでは重さ、かたちと共に均一化されているため、この学習は成立しない。木製という点がポイントとなる。

○35 cmから45 cmと10 cmくらいの差が出るので順番にそろえさせる。

○前回の授業後、休み時間に教室でグループになってけん玉の練習をしている姿が毎日のように見られるようになったと担任の先生から報告があった。子ども自身が自ら興味・関心を持ってクラスのみinnで取り組んだ成果が表れたのであると感じた。また父母の参観日があったことで、家庭でも親子で練習をして教え合っていたということも子どもたちが話してくれた。学校や家庭でけん玉を通して、コミュニケーションが繋がってきたことがわかる。今回も家庭に帰り、「お父さん、お母さん、〇級合格したよ！」と話題になっていることであろう。

○けん玉を机の上に置いてから始める技や空中技、糸を持ってから行う技など新しい技を上げてみんなに挑戦させる。

○認定会

子どもたちで各級ごとのグループをつくり練習をする。

検定をグループごとに行う。

結果は5級に3名、6級に8名、7級に4名9級に1名、計16名が合格した。

今回初めて、5級の技（飛行機）を成功させた子どもが3名誕生した。

活動レベルVI

○新しい技に挑戦2

けん玉ゲーム

A. 玉落としゲーム

二人組になり、それぞれお互いにけん玉を持ち、玉はけん先に入れておく。お互いに握手をし、「よーいスタート！」で、けん玉の玉をおつけ合い、相手の玉を落とした方が勝ちというゲームをする。

B. けん落としゲーム

Aのように握手をしながら今度は玉を持って、ささっているけんを落としあうゲームをする。

C. 中皿ゲーム

お互いにけん玉の中皿に玉を乗せておき、握手をしながら相手の手を引っ張り合ってバランスを崩して、中皿に乗っているけん玉の玉を落としあうゲームをする。

○認定会

希望者のみで検定をする。

結果は4級に1名、5級に3名、6級に6名と計10名が合格する。

○自由な練習をグループごとにさせて、その中に入っていきポイントを説明していく。

○一人一人に挑戦している技の指導をする。

○今まで、挑戦してきたけん玉をグループでもできるようにけん玉ゲームをさせる。

2人一組（それ以上でもできる）となり、対決ができるゲームをさせる。

相手を意識してゲームができるようにできるだけ多くの人と行わせるように心がける。

○ペアをかえ、クラスみんなのできるように指示する。先生方と対決したり、いろんな友だちと遊ぶことができるようにする。

○力の対決ではあるが、けん玉の玉を落とさないようにバランスをとることが重要となる。

○希望者のみで検定をする。

しかし、みんな向上心があるのでほとんどの子どもが受審を希望した。



6年生は三段と初段の検定に1名ずつ合格する。

### 活動レベルⅦ

#### ○おさらい

- ・技を見る。

「ここまでではできるようになったよ！」

技を見て「うーん」と考えている子や、うなずきながら見ている子など思い思いに見ている。

この時の子どもたちは、「私もこの技ができるようになりたい」と思う気持ちに、さらに「この技は私にもできるできるようになったのだ」という自信がみなぎっているようである。

#### ○練習

習得しようとする技の違う各級のグループをつくり、練習をする。

「うまくなりたい」「合格したい」という声が聞こえてくるような熱気がある。

「○○ちゃん、こうやって持つんだよ」

「○○くんはあともう少しだね」

などという会話が聞こえてくる。

○友だち同志で教え合う場面も見られた。

#### ○認定会

全員参加して検定を行う。

練習に時間を注いだ結果、今回クラスで初めて3級に合格した子どもも誕生した。

○5ヶ月の間に全7回にわたってみんなでけん玉を続けて来たことに対して触れる。

○おさらいとして基本の技から順に技を紹介する。

「みんなはこの大皿乗せから始めたんだよ」

以前とは違う反応をみせる。

私が技を見せるたびに驚いていた子や拍手をしてニコニコ嬉しがっていた子が多かったが、授業を展開していく中で子どもたちの中でけん玉に対する意識や興味・関心の対象が変わっていることを感じる。

○この日が最後の授業となるので全員に合格してもらいたいという気持ちがあり、練習タイムを設ける。

○教える側にも力が入る。

○参加した6年生には指導する側として子どもたちの輪の中へ入ってもらう。

○できるだけグループ内で独自に練習をさせるようにして、相手を意識しながら認め合うことができる場をつくるようにする。

○技も難しくなっているため合格者の数は減っているが、友だちが合格すると「やったー」と叫んで、みんなと抱き合って喜んでいる姿が印象的であった。検定を受けているのは自分一人ではあるが、その子を取りまく環境は完全にクラスの一員として頑張

<p>3級に1名, 4級が1名, 5級が5名, 6級が3名の計10名が合格する。</p> <p>○発表会 クラスみんなの前でけん玉を披露する。得意技や自ら考えたオリジナルの技に挑戦する。</p> <p>「すごい!」 「かっこいい!」</p> <p>○技を披露する子どもの姿はそれぞれに自信があり、技をやりだす前は集中して見せる側も見る側もシーンと静まりかえり、技が決まると笑顔が広がって自然と拍手が沸き起こる空間にしばしクラス中で浸っていた。</p> <p>○けん玉にチャレンジしてきた活動をふり返る。</p>	<p>っている姿であった。</p> <p>○みんなの前でけん玉を披露する場面を設ける。</p> <p>○得意技や自らが考えたオリジナル技など様々に発表させる。</p> <p>○子どもたちの好きなようにさせて、みんなの技を鑑賞するようにする。</p> <p>○みんな自信を持って取り組んでいる。もし、もう少し前の回で実施していたらどの様なものになっていただろうと思うとおそらく、恥ずかしがって披露できなかったのではと考えられる。それだけ成長したのだと感じた瞬間である。</p> <p>○次の学習の意欲へと結びつくように配慮する。</p>
---	---

#### 4. おわりに

本研究を進めるにあたって当初から、けん玉の技を習得するだけでなくけん玉を通して多くのことを学んでもらいたいという構想のもとで、この授業実践を行った。総合学習のねらいとして、けん玉を通して技を習得し、達成感や成就感を味わいながら、友だちとのかかわり合いの輪を広げ、さらに家庭（親）・子ども・教師のコミュニケーションへと発展していくことなどを念頭において研究を進めてきた結果、特に次のようなことが明らかになった。

##### (1) 成果を認め合える場面の設定

子どもたちは、認定会や発表会を通じて、お互いにけん玉をし合うことは、児童の励みにもなり、クラス全員が交流できる機会を作ることになった。

A君は、学校の文集にこう記している。

けん玉

「僕は、けん玉ととてもなかがいい。けん玉と僕は心の中でいっしょに話をしています。僕がけん玉で一番大きな皿に玉がのっかると、Yちゃんだったら二番めに大きなお皿にのつけられるといわれます。それでだんだんけん玉ができるようになりました。そうしたら、けん玉の「けん」ができるようになりました。トキドキひこうきもできるようになると思います。先生みたいになりたいです。」<sup>6)</sup>

また、日頃体育や運動が苦手な子どもや、クラスの中であまり目立たなかった子どもがクラスの中で、自分の良さを認められることになったようである。自分の良さを相手に認められた喜びからか、家庭においても学校でのことをたくさん話してくれるようになったと父母から連絡が届いた。すなわちコミュニケーションの増大もさることながら、学校において教師やクラスの仲間同志から認められることによって学習の意欲が大きなものになっていったようである。

検定を取り入れたことで、はじめは「俺が1番だ」、「私のほうがうまい」と言うことを自慢するための検定になってはならないと考えていたが、回が進むにつれて子どもたちの中では、友だちのだれかが合格すると拍手が沸き起こって、抱き合って喜んでいる子もみられ、クラスの中で自分一人ではないことを実感し、お互いに他者を意識し、認め合いながら授業が展開されたと思われる。また、けん玉という昔からある遊びであったこと、家族も知っていて一度は経験をしたことがあるなどの共通認識のもとで、家庭でのコミュニケーションの増大につながる事ができた。そして、保護者会での授業参観によっても良い効果が顕れていると推測できる。

## (2) 学校・家庭・地域社会へと発展

子どもたちは学校でチャレンジしたけん玉を通じて、ある子どもは、地域の国際交流のイベントに参加し、けん玉を見せてとても良い交流ができたと述べている。また、ある子どもは、近所のおじいちゃんやおばあちゃんと会話をするようになり、一緒にけん玉をして遊んだという経験をしたと話している。このことは、子ども自らが家庭や地域社会とのかかわり合いの場を自らもとめるようになったことであり、他の人から認められたことでより自分をとりまく環境に気付くことができたようである。また、けん玉を通じた父母の授業参加を通して、子ども－教師－父母の三者のつながりがみられたことも重要な視点である。

生涯学習体系の中では、「開かれた学校」が一つの重要な課題であるが、単なる学校開放ではなく、子どものために開かれなければその意味は半減してしまう。けん玉を通じた授業の実践では、父母に授業参加を通じて開放し、共に授業をつくっていくことを心がけた。さらに、このけん玉を通じた学習の過程を通じて、校外での大会に積極的に参加する子どもや、児童会館や地域社会のイベントに参加する子どもも見られた。このことは、子ども一人一人の生涯生活において大きな意味をもつものであろう。

## 謝辞

本研究の授業実践を進めるにあたり、慶應義塾幼稚舎クラス担任である前田十一郎教諭には、多大なご協力をいただいた。深く感謝の意を表します。

## 註

- 1) 文部省 「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)」中央教育審議会 1996
- 2) 文部省 「教育課程審議会答申」 1998
- 3) 文部省 「教育課程審議会答申」 1998
- 4) 文部省 「教育課程審議会答申」 1998
- 5) 文部省 「小学校学習指導要領」(平成10年12月)総則及び各教科、「小学校学習指導要領解説」(平成11年5月)総則及び各教科を参考に作成した。
- 6) 慶應義塾幼稚舎 「仔馬」 第51巻第2号 1999.12

## 千葉・森山：個性を生かす総合学習の展開

本論文を作成するにあたり、以下の書籍を参考にした。

- 1) 藤原一生 『けん玉スポーツ教室』 金の星社, 1980
- 2) 日本けん玉協会編 『けん玉シリーズ① レッツ・プレイ!』 小学館, 1984
- 3) 千葉雄司, オフィス・サウス 『けん玉ウルトラテクニクス 最終攻略本』 ジャパン・ミックス, 1998